

# 過疎地域におけるコンパクトビレッジの可能性と課題\*

## Possibility and Problem of Compact Village in Depopulated area\*

小野恵\*\*・李泰榮\*\*\*・川本義海\*\*\*\*

By Megumi ONO\*\*・Taiyoung LEE\*\*\*・Yoshimi KAWAMOTO\*\*\*\*

### 1. はじめに

近年、農山村地域において過疎・高齢化問題が深刻化しており、国の政策ではその対策の1つとして、コンパクトシティの概念と同様、生活の効率を高めた「集住」というまちのあり方に力を入れている<sup>1)</sup>。しかし、農山村地域では、土地への愛着や、血縁等の理由から、一般的に定住意向が強いとされており、政策とのズレが生じたまま概念のみが先行している状況である。

そこで本研究では、まず、農山村地域において住民の視点から生活環境の評価を行う。次に、生活実態と永住意向の関連性を探り、コンパクト化の概念を用いて住み続けるまち(以下「コンパクトビレッジ」と呼ぶ)のあり方の考察を行うことを目的とする。

### 2. 研究の視点

農山村地域では現在、集落ごとにある複数の自治会の統合による自治機能を維持・活性化、あるいは山村奥部にある集落を村の中心部に移転するといった大胆な取り組みもおこなわれるようになってきている。いずれも集落の再編ではあるが、前者は居住地の移転を伴わない集落の再編であり、後者は居住地の移転を伴う集落の再編である。特に後者については、今後の財政上の効率化といった観点からの検討も現実味を帯びるものと考えられ、コンパクトシティの概念同様<sup>2)</sup>、中心地区でまとまったサービスの提供が受けられるような「集住」という方法も提案されている。しかし、一般的に農山村地域の人々は土地や地域に対する愛着心が強いとされ、定住意向が強いことから、このような集落の人々が居住地を移転することは容易ではない。そこで、これら2つの集落再編方法に着目し、住民が求めているまちのあり方を探ることにより、今後住み続けるために相応しいコンパクトビレッジのあり方について考察を行う。

\*キーワード：過疎地域、集落再編、コンパクトビレッジ

\*\*学生員、博士前期課程、福井大学大学院工学研究科

\*\*\*学生員、博士後期課程、福井大学大学院工学研究科

\*\*\*\*正員、工博、福井大学大学院工学研究科

(福井県福井市文京3丁目9番地、

TEL・FAX 0776-27-8763)

### 3. 日常生活における住民意識

#### (1) 調査概要

ここでは、コンパクトビレッジのあり方の基準となる住民の生活環境に対する評価と永住意向の関連性を把握するために、過疎地域に指定されている福井県池田町を対象として意識調査を行った。調査概要は表-1に示す。

表 - 1 意識調査の概要

	・調査対象と方法:15歳以上の住民、直接配布(郵送回収)
	・調査時期：平成18年12月中旬
	・有効回収率(回収/配布)：33.9%(339/1000)
内容	1. 生活実態：買い物、医療・福祉、交通、自然
	2. 生活環境に対する満足度及び変容
	3. 永住意向
	4. 生活環境の将来の重要度

#### (2) 生活環境の評価と永住意向の関連性

住民が求めているコンパクトビレッジのあり方について考察を行うために、意識調査の結果を用いて、住民の生活環境に対する評価と永住意向の関連性を探る。

表-2に示すように、生活環境に対する過去との変化「変容」、満足度「不満」、将来のための重要度「将来」の項目においてそれぞれ順位付けを行った。その結果、永住意向別に各項目に対する評価を見ると、今の場所に住み続けたい「定住層」より、町外に移転したい「移転層」の方がやや厳しくなっていた。しかし、両層ともに順位の高い項目が共通しており、中でも「変容」「不満」に対する「交通」「買い物」の順位が高く、「将来」に対しては「除雪」「医療・福祉」の順位が高い。このことから、これらの共通項目に対する改善を行うことでコンパクトビレッジ実現に向かうと考えられる。

表 - 2 永住意向別の生活環境評価 (%)

順位	変容(悪くなった)		不満		将来(重要度)	
	定住	移転	定住	移転	定住	移転
1	交通 38	買い物 43	交通 52	買い物 65	除雪 93	除雪 94
2	買い物 25	交流 43	買い物 51	交通 65	医療福祉 90	交通 82
下	医療福祉 7	医療福祉 7	自然 17	自然 43	買い物 69	交流 49

### 4. コンパクトビレッジのあり方と課題

#### (1) コンパクトビレッジのあり方

意識調査の結果を踏まえ、住民が求めているコンパクト

トビレッジのあり方について考察を行う。

まず、図-1に示すように、永住意向の質問に対して「定住」の回答が非常に多いことから、この地域のコンパクト化として居住地の移転を伴う集落の再編「集住」は相応しくないと考えられ、「定住層」の意向を優先した地域のコンパクト化が必要であるといえる。さらに、「移転層」の中では「町内」より「町外」の割合が高いため、今後、更なる過疎化が問題視され、今後、住み続けるための新たな取り組みが必要とされる。

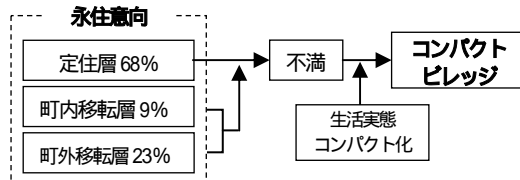


図 - 1 コンパクトビレッジのあり方

## (2)コンパクトビレッジの課題

次に、意識調査の結果を基に項目別に考察を行い、現在の池田町が抱える問題点と課題を整理した。

### a) 医療・福祉環境

「変容」の質問に対して「悪くなった」の回答は少なく、施設までの移動手段も良い評価が得られた。その理由として、診療所や福祉施設を集めた複合施設である総合保健福祉センターが建設されたことにより、一箇所で多様なサービスが受けられることができ、利用者の移動距離の短縮を可能にしたためと考えられる。また、移動手段については、町内バスが走行していることを理由に良い評価が得られたと考えられる。つまり、「医療・福祉」に関してはコンパクト化の概念が既に適用されており、定住しながら住み続けられる環境が整いつつあるといえる。

### b) 買い物環境

日用品であっても「町外で買う」の回答が非常に高く、移動手段としては自動車に依存していることから、広域な活動領域の中で生活していることがわかる。その原因として町内の商業施設の減少があげられるが、過疎地域内での商業施設経営は需要が低く、採算性等の問題から難しい状況である。よって、商業施設に対する不満を解消するためには、町内外のアクセスの改善が必要不可欠となる。しかし、今後高齢化の進行により自動車の運転が難しくなった場合を考えると、公共交通の利便性向上が優先的であると考えられる。つまり、「買い物」に関しては交通システムの強化を図り、町外へのアクセスを充実させることが、今後のコンパクトビレッジのあり方であると考えられる。

### c) 除雪環境

最後に、将来の重要度が最も高い「除雪」に関しては、居住地の移転を伴う集落の再編を行い、中心となる地区に「集住」することが除雪に対する範囲の縮小化につな

がり、問題の軽減となる<sup>3)</sup>。しかし、住民の定住意向が強いことから土地利用の集約は難しいといえる。つまり、冬期だけの集住等、場合によって2つの視点からコンパクトビレッジの概念を使い分けることも考えられる。

以上から、医療・福祉施設といった高齢者に必要な施設は町の中心部に配置し、商業等の町外に頼らざるを得ないものは、町外への交通システムの強化を図ることが、定住意向の強い地域におけるコンパクトビレッジの形であると考えられ、農山村地域においてコンパクト化における課題を確認することができた。

## 5. コンパクトビレッジ実現への可能性

池田町において考えられるコンパクトビレッジの段階的なイメージをまとめると図-2のように示すことができる。まず、住民の良い評価が得られている医療福祉サービスを町中心部に拠点化、高度化するとともに、町内交通ネットワークの充実を図り、町中心部と周辺集落の一体化を進める。次に、不満足意が多かった買い物環境改善のために、町外交通を充実させ近隣市中心部との交通ネットワークの強化を図る。さらに、冬期間においては町中心部で新たな共助コミュニティが形成されるような住居の提供などを行い、自立的な共生によるコンパクトビレッジの実現を目指すことが望ましいと考えられる。

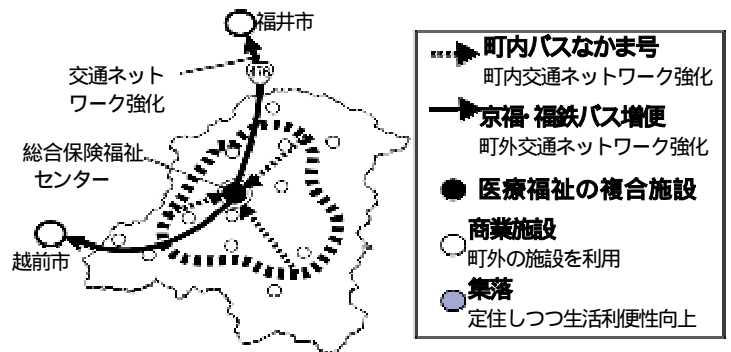


図 - 2 池田町におけるコンパクトビレッジイメージ

## 6. おわりに

本研究では、以下のような知見を得ることができた。

- ・生活環境の評価の程度は永住意向別にみると異なるが、評価構造は共通していることがわかった。
- ・永住意向では、定住意向が強いため、これを踏まえたコンパクトビレッジのあり方と課題を整理できた。
- ・コンパクトビレッジ実現への可能性について検討した結果、町内外の施設をつなぐ交通ネットワークを強化させることが最も重要であることが確認できた。

### 参考文献

- 1) 「農山村の人口及び集落の動向」第二回農山村進行研究会 参考資料3、1996。
- 2) 海道清信：コンパクトシティ，学芸出版社，pp254，2001。
- 3) 深澤大輔：豪雪地帯過疎農山村における居住地の再生，日本雪工学会，No. 3，pp3-15，2000。